

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0155880016		
法人名	社会福祉法人 愛全会		
事業所名	グループホームおおむらさき		
所在地	〒069-1513 夕張郡栗山町朝日4丁目9番42 (電 話) 0123-72-6202		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】 (平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.73人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	15,000~21,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 440 円
	夕食	440 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.3 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長岡外科整形外科医院・南川歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、介護老人保健施設の併設型事業所として設立し、1階部分がデイサービス、2階部分がグループホームとなっている。老人保健施設とは廊下で結ばれており、日常的に行き来でき協力関係が図りやすい環境にある。母体法人のバックアップのもと、内部研修の充実が図られサービスの質の向上に繋がっている。医療連携体制は構築されており、24時間を通して併設施設と連携ができ、利用者や家族の安心に繋がっている。家族やボランティア、幼稚園児の来訪、高校生の体験学習等、地域住民の理解もあり、事業所独自の交流が進みつつあり利用者の生活の張りとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となっていた職員の外部研修については、併設施設と調整をとりながら外部研修に参加し、研修した内容は職員全体で学ぶ機会を設け、サービスに活かすよう取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価の全項目に、個々のケアの振り返りの機会として取り組み、全職員で検討し作成している。また、第三者の視点を気づきの機会として外部評価を活かし運営に反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、地域住民、町職員、事業所職員で2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の運営や利用者の状況についての説明を行うとともに、事業所からの報告事項、アンケートの結果等幅広い議題を協議し、様々な意見やアドバイスを受け、これらの意見を事業所全体で検討し運営に活かすよう努めている。さらに、運営推進会議を有効に活用し地域との協力体制も進みつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の日常的な来訪時や多くの家族が参加する行事の時を活用し、家族とともに話し合う機会を設け話し易い雰囲気作りを心がけている。また、年1回家族アンケートも行い意見を運営に活かすよう努めている。さらに、第三者からの苦情窓口も開設している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設施設と町内会合同の様々なイベントに参加し、地域住民との交流の機会として活用している。老人クラブの懇親会や餅つき、運動会への参加、ボランティアや学生の体験学習も受け入れ、事業所の理解に繋がっている。災害時の支援も働きかけ、地域との協力体制も進みつつある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時から、我が家のように地域とともにある環境を目指した理念を掲げ、日々のケアの基本としている。理念を具現化するために、年度目標を作成し実践に活かすよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念とともに今年度の目標の「ゆっくりと、一人ひとりのペースに合わせ、笑顔で目配り、心配り」を毎日の申し送りの時に全体で唱和し、個々のケアに照らし合わせながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人クラブとの懇親会や餅つき、ひな祭りコンサート、併設施設と町内会との合同の夏祭りや運動会、秋祭り等、地域住民と積極的に交流を図っている。事業所を訪れる様々なボランティアや幼稚園児との交流も多く、さらに、高校生の体験学習も受け入れている。また、年3回の事業所便りを町内会に向けて発行している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりが個々のケアの振り返りの機会として取り組み、全体で検討して作成している。また、第三者の視点を気づきの機会として外部評価を活かし、カンファレンス等で職員全員で検討し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、町内会長、老人会長、町職員、民生委員、事業所職員で2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。事業所の運営及び利用者状況の説明、行事案内、家族アンケート結果や外部評価結果など幅広い議題を協議し、出席者から意見やアドバイスを得て事業所内で検討し運営に反映させている。運営推進会議の機会を通して、地域住民との信頼関係も進みつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との関わりは、事業所の運営推進会議に町職員が参加する機会があるが、それ以外の関わりは少ない。	○	市町村は地域福祉の推進役となる立場にあり、課題解決にともに取り組むことが求められる。ケア会議や様々な機会を活用し、町と日常的に連携できるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常的に来訪する家族が多く、機会を捉えて利用者の様子や健康状態、預かり金の使途について伝えている。また、日々の暮らしぶりが分かる写真を豊富に掲載し、個々の報告スペースを設けた通信を月1回送付し報告している。なお、急変時には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や様々な行事に集う家族等が、意見や希望を気軽に言い易い雰囲気作りに心がけている。また、年1回家族アンケートを実施し、家族の要望を職員全体で検討して運営に反映している。外部の苦情窓口も掲示し、重要事項説明書にも提示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、併設施設からが多く、日常的な交流の中で馴染みの関係があり利用者の混乱は少ない。異動がある時は利用者の状態を把握している職員とともに、徐々に関わりを多くするなど、利用者の不安に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの事業所を持つ母体法人の協力体制のもと、様々な内部研修の受講が可能となっている。月1～2回の内部研修とともに、外部研修も段階的に受講し、カンファレンス時に伝達研修を行い、全職員で学びあう機会としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管内のグループホーム管理者会議や、介護計画作成担当者研修で他事業所と交流しているが、職員はスタッフ研修での交流に留まっている。管理者は、他事業所と相互交流できる機会を検討中である。	○	職員の、他事業所との相互訪問や勉強会への参加など積極的に交流する機会を確保し、ともにケアの質を高めるよう取り組むことを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の事業所から移行する利用者が多いので見学や体験を通して事業所で過ごす機会を設け、徐々に馴染めるよう配慮している。さらに、事前に利用者の自宅を訪問し、家族と話し合いながら利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの力量に合わせ、利用者は、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等をしている。職員は、料理の味付けを教わったり優しい心配りに癒され、利用者から学ぶことも多く、ともに支え合う関係となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や習慣を把握しながら、日常生活での会話から一人ひとりの思いや意向を汲み取り、記録シートに随時書き込み一人ひとりの意向に沿った支援に活かしている。意向の把握が困難である利用者には、日々の様子を見ながらできるだけ意向をくみとるなど、利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに職員を担当制にすることによるきめ細かな観察を基に、月1回のカンファレンスで気づきや課題を話し合い、状況確認を行いながら3ヶ月ごとに介護計画を作成している。家族の来訪時や機会を捉えて希望や意見を聞き、プランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直しているが、さらに、本人の身体的、精神的状況に応じて随時見直しを行い、家族と相談しながら現状に沿った計画となるよう作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を採っており、利用者の健康管理に柔軟に対応している。また、家族の状況に応じて受診の送迎や馴染みの美容室への付き添いを行っている。家族が付き添うときでも必要に応じて事業所のリフト車での送迎を行っている。併設施設のリハビリスタッフから利用者の身体機能の助言も受け支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿ったかかりつけ医を受診している。受診時には利用者の心身の状況を情報提供し、医師からの指示、指導を受け支援している。利用者の身体状況によっては、家族とともに病状説明を受けることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた対応指針を作成し、事業所としてできること、できないことを契約時に説明し提示している。重度化に備え、医師や併設施設の看護師との医療連携を整え、職員全員で方針が共有できるよう話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを大切な家族と考え、利用者のプライドに配慮した言葉かけや対応に留意している。日々の介護記録もプライバシーに留意した記載をしており、決められた保管場所に適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの思いや希望に沿って散歩や、買い物等の支援をしている。中には事業所を職場と思い、身の周りの手伝いをする利用者もおり、個々のペースを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、調理・料理の盛り付けなどの食事の準備を職員とともに取り組んでいる。食材も豊富で色や形体も考慮し、目で見ても楽しみ、食べやすい工夫も施し、食事が楽しみなものとなっている。天気の良い日にはテラスで食事を楽しむなど、雰囲気作りの支援もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴ができ、利用者の希望に合わせ、ほぼ1日おきに入浴している。今後、職員の手薄となる夜間の入浴希望にも沿えないか検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や生きがい、好みを把握し、支援に努めている。利用者は、花の水やり、食事の用意、身の回りの手伝いなど役割として自然に行なっている。ボランティアの来訪も多く、手踊りや将棋を楽しんだり、話し好きな利用者には他者との関わりも考え気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体機能の低下により戸外での活動が少なくなってきたが、短時間でも外気に触れる機会をもつように考え、散歩や隣接する福祉センターや喫茶店で過ごす機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、自由に出入りできるよう鍵をかけず、見守りながら支援している。事業所が2階であることも考慮し、夜間のみ玄関に施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年2回避難訓練を実施し、救急救命士による救急講習を受けている。また、今年度から町の防災訓練にも参加し、地域との連携強化に努めている。運営推進会議を活用し、災害時の支援を町内会に働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を把握し一日の必要量を確保している。献立は併設施設のメニューを参考に食材品目を多くし、栄養バランスを考慮したものとなっている。併設施設の管理栄養士の指導、アドバイスを得ながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設型であるため玄関は通所サービスと共用となっており、事業所は2階に位置している。食堂兼居間を中心に居室と台所が面しており、全体的にゆったりとした共用空間となっている。ソファでくつろいだり、食堂テーブルで会話や本を読んだり、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感がある居室には、使い慣れた家具や調度品、テレビを置き、壁には誕生日のメッセージカードや写真を飾り、一人ひとり個性ある居室となっており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。